

目ざすは日本文明のルネッサンス

坂中英徳

絶体絶命のピンチは飛躍発展のチャンス

人口統計学的推計で日本の未来が明らかになる。最近の人口統計は、地球文明の一翼を担う日本人と日本文明が地球上から消えてゆく絶望の未来を指し示している。平成の日本人は空前絶後の危機にあることを直視しなければならない。

わたしは日本民族の消滅危機を、日本が移民国家へ転換する絶好の機会とかねて主張してきた。日本の絶体絶命のピンチを日本の飛躍発展のチャンスに変える逆転の発想だ。国民一丸となって移民国家で世界の頂点を目ざしてはどうか。

このビッグチャンスをつかむのは少子化時代に生まれた少年少女たちだ。若い世代が先頭に立って歴史的な第一歩を踏み出し、世界に冠たる移民国家の建国の主役を務めてほしい。

わたしが描いた移民国家像には救国の魂がこもっているにちがいない。移民政策一本の道を歩んだ実績を踏まえ、文明崩壊の脅威にさらされている祖国を救いたい一念で移民国家ビジョンを立てた。

しかし、志が詰まり、地に足が着いた実践的移民政策論だと自負しても、国民の理解が得られたかという点、実はそうではない。人口危機が深まるなか、国民の間から移民の受け入れに賛同する声が上がらないのだ。目だった反対論がないのは救いだが、総じて国民は移民問題に沈黙したままである。国民と移民をへだてる心の壁は厚いと痛感する。

ひとえに私の責任である。移民政策の伝道役として失格である。国民の誤解を解くための努力、たとえば、人口崩壊の恐ろしさと移民立国の必要性、国の形を移民国家に変えることによるメリットの数々などを国民に伝える努力が足りないのだろう。

日本文明の未来永劫の存続は移民国家の創成にかかっていることについて国民の理解が得られるまで説得に努める。それとともに、移民国家創成塾を主宰し、移民国家の担い手の育成に余生をささげる。

日本と世界の若者に日本の未来を託す

未来への展望が開けない日本の若者を奮い立たせるような国家目標はあるのだろうか。人口ピラミッドが逆三角形に向かう時代にぴったりの目標がある。世界のモデルとなる移民国家の樹立だ。

人口ピラミッドが崩壊する時代は、現在の10代・20代が存命中に不可抗力的に訪れる。革命的な移民政策をとらない場合の2060年の日本は、年少人口(14歳以下)が1

人に対して老年人口(65歳以上)が4・4人という超少子・超高齢社会に突入する。

人間の社会でそんな異常な社会が存続することは不可能である。50年を待たずして日本社会は事実上崩壊してしまう。そのような未知の領域の社会を何とさえいいのだろうか。「日本人が消えてゆく社会」とでも呼ぶしかないだろう。

移民革命を行って人口崩壊を乗り越えるための道筋をつけ、若い世代が移民と友達関係を築けるかで若者の未来が決まる。ひいては日本民族の命運も定まる。

日本の明日を担う若者が移民と手を組んで多民族共同体の創建に挑んでほしい。これ以上に若者のチャレンジ精神をかり立てるテーマはない。日本の若者は、人類永遠の課題に挑戦することによって、思いやりの心と博愛精神をかねそなえた地球人に成長するだろう。

近未来の地球人への最高のプレゼント

今日の日本は、日本の歴史にも世界の歴史にも前例のない「人口秩序の崩壊」の危機に直面している。日本国の全面崩壊にもつながりかねない一大危機だ。未曾有の危機に立ち向かうのに生半可な改革をいくらやってもダメだ。今の日本に必要なのは国の形と国民の生き方を根本的に改める革命である。

千年に一回の移民革命を行う覚悟が国民に求められる。人口激減による日本文明の崩壊の危機を移民革命で乗り切るのだ。

すなわち、世界の若者に移民の入国の扉を開放し、移民教育を熱心に行って立派な国民に育て、人口ピラミッドを正常な形に立て直すのだ。

人口秩序の回復には百年を超える時間がかかる。それは日本人の内なる敵との闘いでもある。目ざすべきは島国根性から脱皮し、移民を人類同胞として迎える地球人である。

日本文化史が雄弁に物語るように、日本人は外国の文化や宗教を寛容の精神で受けとめて自分のものにしてきた。日本文化は、日本人が世界の文化の精髓を取り入れて洗練されたものに磨き上げた「雑種文化」の優等生である。移民の受け入れも、和の心が健在で、尊大なところが少ない日本人なら成功に導けるだろう。

究極の目標は人類共同体社会の樹立である。日本人がそれを成就すれば、恒久的世界平和への第一歩となり、近未来の地球人への最高のプレゼントになるだろう。

以上のような移民国家の理念と世界平和哲学を披露した最新作が、『新版 日本型移民国家への道』(東信堂刊)である。この本の刊行がきっかけとなって移民国家議論が大いに盛り上がることを期待する。

究極の目標は恒久的世界平和体制の確立

民族や文化の異なる人と人との平和共存の道は決して平坦ではない。世界の諸民族の共存共栄は人類永遠の課題なのかもしれない。

しかし、平和を願う心はあまねく人類のDNAにそなわっている。長い時間はかかるが、恒久の世界平和が実現する可能性は全くゼロとはいえないと考えている。

一般論をいえば、自らの民族と文化に誇りを持たない国民は異なる民族と文化に寛容になれない。外国人はそのような国民に敬意を表さない。

日本が移民の受け入れで成功をおさめるためには、日本人と他の民族が互いの立場を尊重し合って生きる社会、すなわち多民族共生社会をつくる必要がある。

そのとき日本人に求められるのは、日本人としてのアイデンティティを確認するとともに、異なる民族を対等の存在と認めることだ。日本民族の根本精神を堅持するとともに、ほかの民族の固有文化を尊重しなければならない。

世界の民族が移住したいと思う国は、日本人が日本人としての誇りを持ち、移民が移民としての誇りを持てる社会である。

わたしは、移民国家日本の究極の目標として、いまだ世界のどの民族も成し遂げていない人類共同体の実現を掲げている。先祖代々の日本人のほか、地球上のさまざまな民族が日本国民として一つにまとまる社会だ。

世界の主要民族は、大なり小なり「エスノセントリズム」（民族的自己中心主義）の考えを持っている。しかし、今の日本人には自分たちが最も優秀な民族という民族的優越感はほとんど見られない。世界の諸民族のなかでも日本人は謙虚な民族の部類に入るのはないか。

加えて、日本人は古来、人類はもとより動物・植物・鉱物を含む万物平等思想をいっている。地球上に存在する人種・民族はすべて平等と考える日本人なら、地球上のすべてのひとびとが永遠の平和をエンジョイする理想世界を築けるのではないかと想像をたくましくする。

TPP の次の課題は移民開国

平成の開国の本命は「移民」というのが世界の常識である。国際社会は、日本が移民の門戸を開かないかぎり、ほんとうに国を開いたことにはならないと冷静に見ている。

平成の開国劇において TPP への加入は序幕にすぎない。内閣の移民国家宣言で終幕を迎える。

TPP の次の課題は移民開国である。これは日本の百年の計であるとともに、日本の生き残りがかかる国家戦略でもある。

明治の開国は、西洋文明を積極的に取り入れた「文明開国」であった。戦後の昭和の開国は、貿易と資本の自由化を行った「経済開国」であった。今まさに国民的課題に急浮上した平成の開国は、人口危機におちいった瀕死の日本を元気にする「移民開国」である。日本人が最後まで拒み続けてきた「人の開国」だ。

移民開国はすなわち移民革命である。究極の日本改革の引き金になる。日本人の生き方

から社会・経済・教育制度にいたるすべての根本的変革を迫るものとなる。

日本が移民立国を国是とする国になると、人の移動・外交・経済・安全保障の分野で移民送り出し国との関係強化が進む。移民外交が日本外交の柱の一つになる。

わたしは、国際約束に基づき看護師・介護福祉士などを移民として計画的に受け入れる体制を早急に確立し、環太平洋経済圏の一員になること、それしか日本の生きる道はないと考えている。環太平洋地域には、米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなど、世界の移民大国が顔をそろえている。

日本がTPPに加入するとともに、50年かけて移民1000万人を計画的に入れる「移民大国」の道を歩めば、移民立国の理念を共有する主要国が環太平洋地域に集結する移民国家連合が形成される。それだけにとどまらない。加盟国の間で人の移動が激しくなり、しだいに一体感が醸成され、太平洋共同体に発展する可能性も考えられる。

安倍晋三首相にお願いがある。日本がTPPへの参加を決定する時に移民国家の名乗りをあげ、日本は米国など主要な移民国家と連携して環太平洋地域における人の移動の拡大と世界平和に貢献すると世界にアピールしてはどうか。

日本文明のルネッサンスを目ざす

以下は、私の移民国家ビジョンに寄せられた感想である。「千年来の移民鎖国からの歴史的転換」（日本文明史家）。「明治維新以上の革命」（外国人問題の研究者）。「移民革命の先導者」（米国人ジャーナリスト）。「日本の救世主」（英国人ジャーナリスト）。

日本の歴史を概観すると、日本人は小さな改正を積み重ねてうまく生き延びるのは上手だが、根本的な変革や革命は好まない民族ではないかと思うことがある。

日本の歴史上、「大化の改新」と「明治維新」はれっきとした新国家の創建であった。だが、なぜか日本人はそれを「改新」「維新」と呼んで「革命」とはいわない。日本人は国の断絶を嫌い、国の継続を尊ぶ民族なのだろう。もっとも、日本人は本物の革命をやらなかったのかもしれないが、先人の英知と努力のおかげで日本文明は地球文明において確固たる地位を占めている。

しかし、今日の日本は、世界の歴史に例のない「人口秩序の崩壊」という国家存亡の危機にある。かけがえのない日本文化を背負って日本民族が消えてゆく開びやく以来の危機に臨んで、日本人が得意のちまちました改革をいくらやっても、今度ばかりは日本民族の永続の可能性は薄いといわざるをえない。日本の全面崩壊を阻止するには日本史上初めての「革命」を行う覚悟が国民に求められる。

わたしは、人口体系の崩壊が迫る中、人口秩序を正す切り札である移民革命を実施すること、それしか日本民族の消滅を免れる方法はないと主張している。移民革命は、国籍と民族の垣根を越えて国民と移民が一丸となって日本の重大危機に立ち向かうものだ。

それは平成の日本人が国運を賭けて行う平成革命である。入国管理の門を移民に全開し、

国の形を多彩な民族が共生する移民国家に改め、人口ピラミッドを正常な形に戻すのだ。未曾有の規模の移民を入れる移民革命は劇薬である。しかし、それはいわば「民族の自然死」に向かって衰弱してゆく日本民族を健康にする万能薬なのだ。

同時に、わたしたち日本人は、世界のモデル国となる移民国家の完成を目ざし、100年以上続いた移民鎖国体制の下で形成された島国根性を拭い去り、移民とわきあいあい暮らす地球人に変身する必要がある。子々孫々の日本人が理想に向かって絶え間ない努力を続ければ、100年後には悲願の人類共同体社会を創造できるであろう。

新生日本の究極の目標は日本文明のルネサンスである。「日本人」と呼ばれる文明人が地球上に永遠に存在することである

わたしたちの祖先は不屈の精神で幾度もの民族的危機を克復してきた。人口統計学が予測する日本民族の消滅危機も、日本人の英知と克己心で切り抜けられると確信する。

人口崩壊の時代を乗り切るための社会革命を断行するとともに、速やかに移民大国への転換を図り、今世紀中の移民解放政策を貫き通せば、100年以内に人口が減りも増えもしない「静止人口」の社会を迎えるだろう。わたしは地球規模で深刻化する人口問題、環境問題、食糧問題、エネルギー問題などを考慮し、かつ現在の英国(6400万人)、フランス(6600万人)、ドイツ(8000万人)の人口を参考にすると、7000万人台の人口で落ち着く社会が望ましいと考えている。

以下に、人口静止社会に生きる日本人の理想像を描く。田園と里山が広がる日本列島で悠々自適の生活を楽しむ日本人。安寧秩序が保たれた社会で平穩に生活する日本人。地球上の諸民族が勢ぞろいした多民族社会で多様な民族と仲良く暮らす日本人。